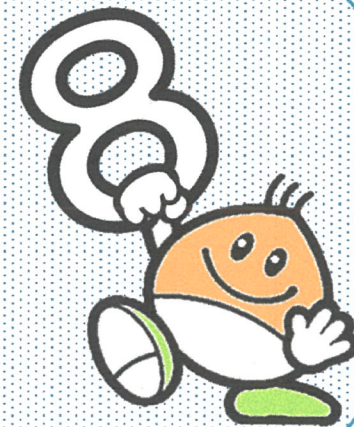


栗東市教育委員会
令和3年度 全国学力・学習状況調査結果について
～栗東市の結果の概要と今後の取組～



◇全国学力・学習状況調査の概要◇

〈実施日〉令和3年5月27日(木)

〈対象〉小学校9校 第6学年 児童721名
中学校3校 第3学年 生徒689名

〈調査内容〉

- 教科に関する調査〔国語 算数・数学〕
- 生活習慣や学習環境等に関する
質問紙調査

全国学力・学習状況調査は、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握し、学校における児童生徒への教科指導の充実や学習状況等の改善に役立てる目的で、昨年度を除き、毎年全国全ての小中学校を対象に実施されています。

ここでは、栗東市における今年度の調査結果の分析についてお知らせするとともに、それを踏まえた今後の学ぶ力向上策についてご説明いたします。

教科に関する調査結果

小学校国語

グラフの見方

全受験者数を
100%として評価
観点別に割合を
示しています。

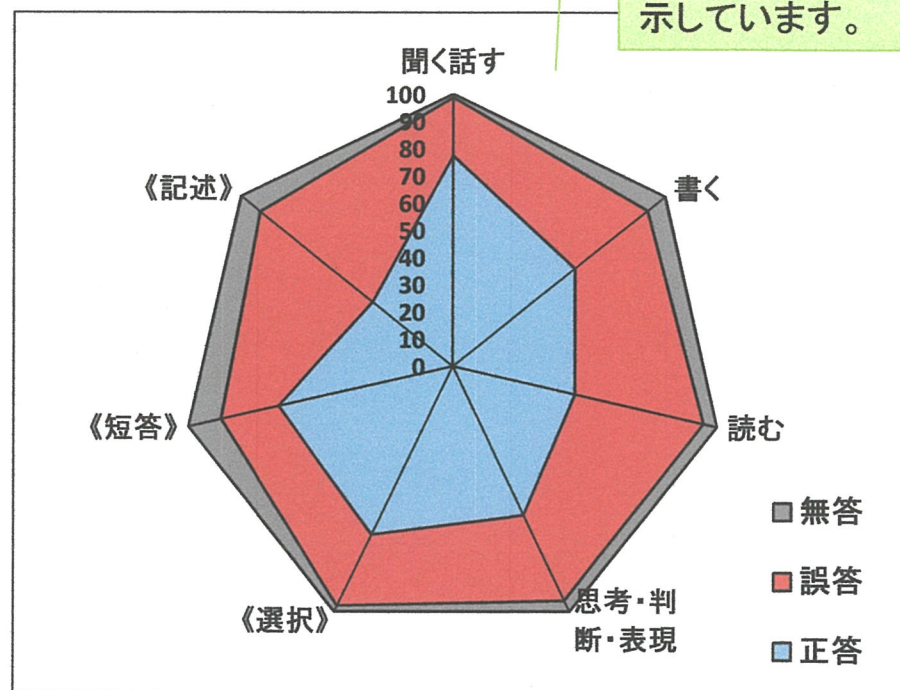


図1. 領域・《解答形式》別解答状況(小学校・国語)

解答形式について

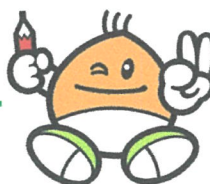
《選択》複数の選択肢から選んで解答するもの
《短答》適切な語句や数字で解答するもの
《記述》文章で記述して解答するもの

優れている点

- ・「目的や意図に応じ、資料を使って話す」「文章全体の構成をとらえ、内容の中心となる事柄を把握する」問題で正答率が高かったです。
- ・新学習指導要領で示された「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること」を踏まえた「話すこと・聞くこと」に係る出題について、全体的に正答率が高くなりました。目的に応じて、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考えることはできていると言えます。

課題となる点

- ・漢字の書き取り、主語と述語の関係、修飾と被修飾の関係など、基本的な知識・技能の活用に課題が見られました。
- ・漢字の書き取りでは、同じ音や同じ部分をもつ漢字の使い分けに弱さがあるため、漢字の成り立ちや部首の意味など、漢字への理解を深め、文章の中で漢字を使う習慣をつけることが重要です。
- ・主語と述語の関係、修飾と被修飾の関係については、修飾語が離れた語句を修飾する場合があることを理解したり、書いた文章を主語と述語が適切に照応しているかに着目して読み返したりすることが大切です。
- ・どの問題においても、全国値と比較すると無解答率が高かったのも、特に選択問題では何か答えを選んで記入することも必要です。



小学校国語で課題が見られた問題

2 四

面ファスナーに関する【資料】を読み、面ファスナーが国際宇宙ステーションの中でどのように使われているのかをまとめて書く問題です。この問題の正答率は、27.4%(全国比-2.3)です。

■つまずきの例

国際宇宙ステーションでの使われ方について書いていますが、面ファスナーのよさを取り上げて書いていません。

面ファスナーが宇宙でも使われていることについて、端的にまとめようとしていることを捉えることはできています。しかし、国際宇宙ステーションの中で使われ方が書かれている部分を中心に読み、必要な情報を見付けて要約することができていないと考えられます。



目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができているかどうかをみる問題です。

- 四 相川さんは、【資料】を読み、面ファスナーが宇宙でも使われていることについてまとめています。面ファスナーは、国際宇宙ステーションの中でどのように使われていますか。次の条件に合わせて書きましょう。
- 面ファスナーのよさを取り上げて、国際宇宙ステーションの中で使われ方について書くこと。
○ 【資料】から言葉や文を取り上げて書くこと。
○ 五十文字以上、七十文字以内にまとめて書くこと。

(条件)

四 相川さんは、【資料】を読み、面ファスナーが宇宙でも使われていることについてまとめています。面ファスナーは、国際宇宙ステーションの中でどのように使われていますか。次の条件に合わせて書きましょう。

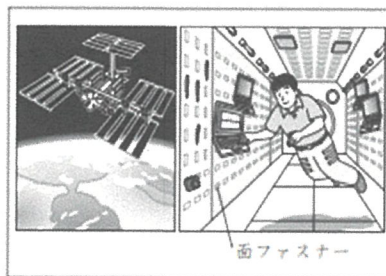
短時間でヘッドレストカバーを交換する必要があります。そのため、一つ一つ取り外さなければならぬホックやボタンより留め外しの簡単な面ファスナーの方が、留め具として適していたのです。誰もが注目する新幹線に使われたことで話題となり、その存在が日本中に知られるようになりました。

一九八〇年代には、私たちの身近にある製品でも使われるようになりました。財布やカバン、かさなどの家庭用品をはじめ、サポーターや血圧計の巻き付けバンドなどの医療用品にも広がっていきました。布のように柔軟性があり、物や体の形にぴったり合わせることができる面ファスナーが適していたからです。中でも大流行したのが、面ファスナーを使った運動ぐつでした。ひもぐつに比べ、手間をかけずに目的や好みに合わせてしめぐあいを調節することができるようになりました。同時に、素材の開発も進められました。

現在では水に強く熱にも強い素材で作られているものもあります。

また、しっかりとくっつき簡単にはがすことができる面ファスナーは、宇宙でも使われています。地球のまわりを回る国際宇宙ステーションの中には無重力状態のため、物がうかびます。そこで活躍しているのが面ファスナーです。国際宇宙ステーション内のかべや天井には、あらゆる場所に面ファスナーがつけられています。ベンやスプーン、カメラやコンピュータなど、身の回りの全ての物が固定できるようになっているのです。

一人の気づきから誕生した面ファスナーは、人びとの要求に応える形で、活躍の場を広げてきました。身近な生活場面だけでなく、宇宙空間にまで広がり、さらなる利便性が追求されています。



国際宇宙ステーションとその内部

小学校算数

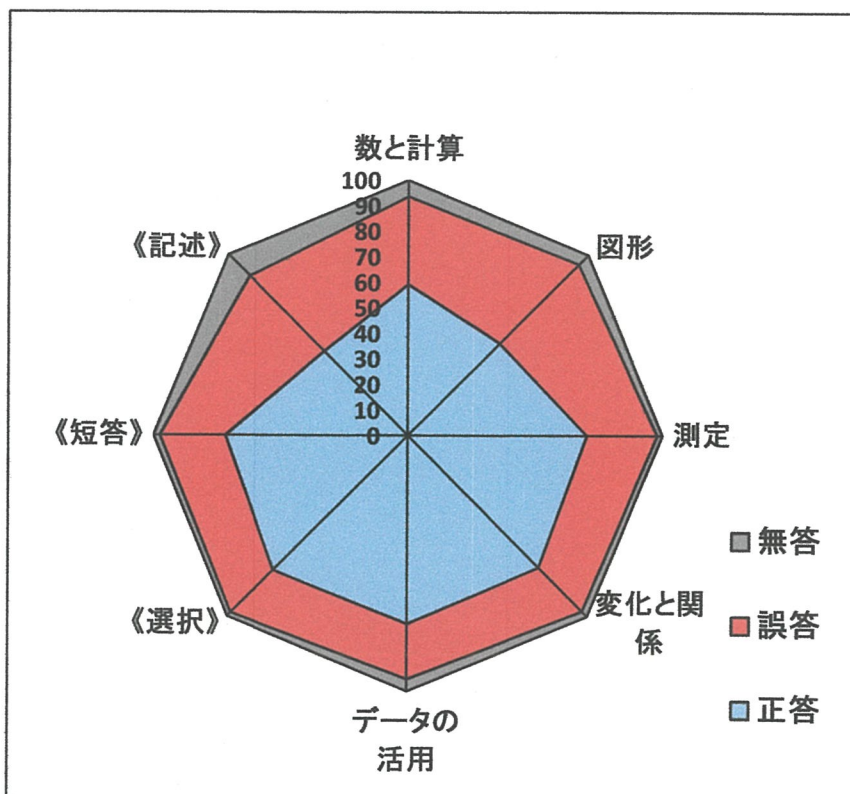
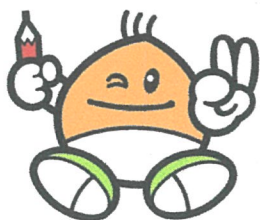


図2. 領域・《解答形式》別解答状況(小学校・算数)



優れている点

- ・商が1より小さくなる等分除(全体をいくつかの同じように分けるわり算)において、場面から数量の関係をとりえわり算の式に表し、計算をする問題で全国値を上回りました。
- ・「速さ」を求めるために、わり算の式と商の意味は理解できています。県の値を上回り、全国値と同じでした。

課題となる点

- ・三角形の面積の求め方について問われた問題では、三角形の面積の公式そのものについて理解が不十分なものや、直角三角形の底辺や高さの関係についての理解が不十分なものが多く見られました。底辺と高さに着目できるように、底辺と高さに印をつけるなど、底辺と高さの位置関係を意識して、必要な情報を取り出せるようにすることが大切です。
- ・記述式で答える問題の正答率は低く、無解答率が高くなっています。具体的には、二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述すること、複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方をとらえて、面積の求め方と答えを記述することに課題が見られました。

小学校算数で課題が見られた問題

2 (1) 三角形の面積の求め方の意味について問う問題です。

図1のような直角三角形があります。

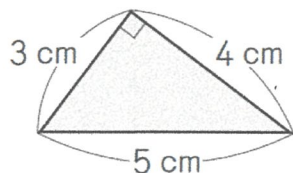


図1

(1) 図1の直角三角形の面積は何 cm^2 ですか。

求める式と答えを書きましょう。

【正答】 $3 \times 4 \div 2 = 6$
(乗数と被乗数を入れ替えても正答となる)

【正答率】 45.6%
(県: 49.1% 全国: 55.1%)

【誤答】

・三角形の面積の公式についての理解が不十分。

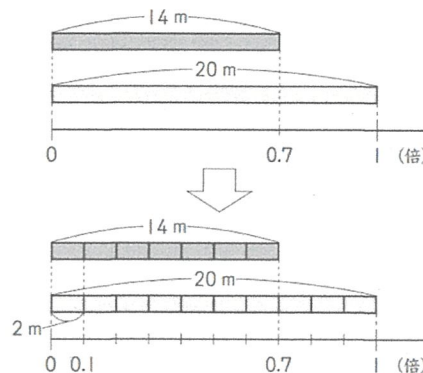
【例】 $3 \times 4 \times 5$ $3 \times 4 \times 5 \div 2$

・直角三角形の底辺や高さの関係についての理解が不十分。

【例】 $5 \times 3 \div 2$ $5 \times 4 \div 2$

「1辺を底辺と決めたときに、それに対応する高さがどこになるのか。」を考えるために、1つの三角形ABCを用いて、辺ACや辺AB、辺BCを底辺としたときの高さはそれぞれどこになるかを考えたり、図形を回転させて観察する活動をしたりして、底辺と高さの関係について理解を深められるようにします。

4 (3) 小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述する問題です。



【ゆうまさんの説明】

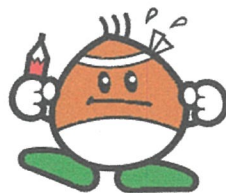
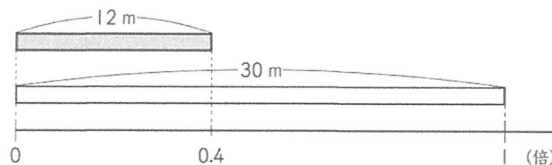


20mを1としたとき、0.1にあたる長さは2mです。

14mは、2mの7つ分になるので、20mを1としたときの0.7にあたります。

30mを1としたときに12mが0.4にあたるわけを、【ゆうまさんの説明】と同じように、0.1にあたる長さがわかるようにして、言葉や数を使って書きましょう。

※ 必要ならば、下の図を使って考えてもかまいません。



【正答例】

30mを1としたとき、0.1にあたる長さは3mです。12mは、3mの4つ分になるので、30mを1としたときの0.4にあたります。

【正答率】 46.9%
(県: 46.8% 全国: 51.5%)

【誤答】

・30mを1としたとき、0.1に当たる長さが3mになることは記述できているが、12mは3mのいくつ分に当たるかについては記述できていない。

【例】30mを1としたとき、0.1にあたる長さは3mです。だから、0.4にあたります。

中学校国語

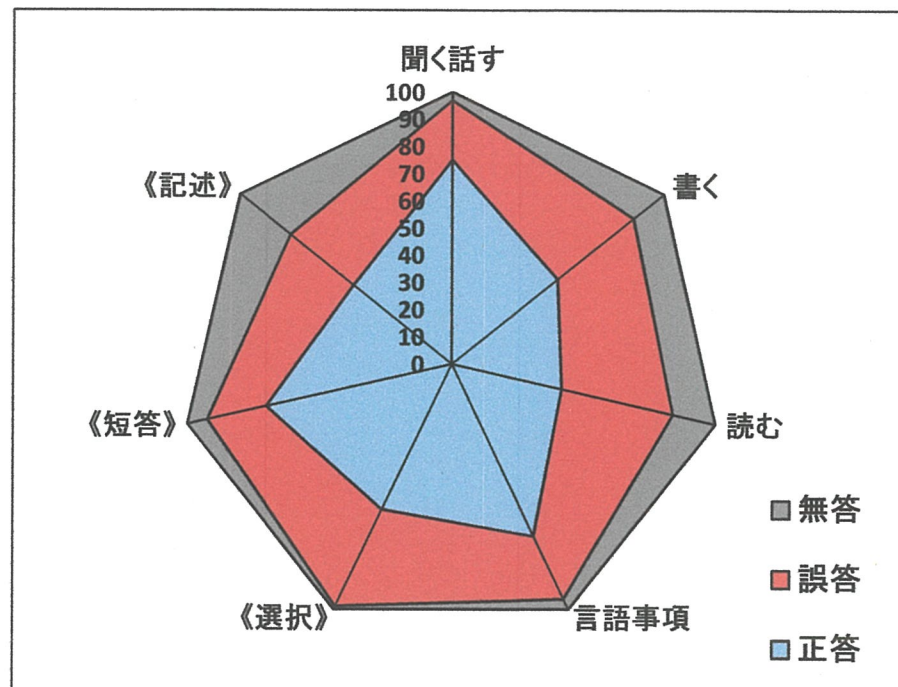
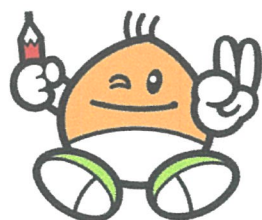


図3. 領域・《解答形式》別解答状況(中学校・国語)



優れている点

- すべての問題において、県・全国値ともに、正答率は下回りましたが、書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書くことは比較的できていました。
- 文脈に即して漢字を正しく読む問題では、「詳細」の読み方について、正解できた生徒が多い傾向にあります。

課題となる点

- 特に以下の問題において、課題が見られました。
 - 伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くこと
 - 相手や場に応じて敬語を適切に使うこと
 - 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分の考えをもつこと
 - 書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考えること
 - 話し合いの話題や方向をとらえて、話す内容を考えること
- 資料から必要な情報を見付け、実際に引用する学習を繰り返し行い、引用に対する理解を深める学習が必要です。
- 敬語は、「尊敬語」「謙譲語」「丁寧語」について、具体的にどのような場面で、どの言葉を使うのか、文章だけでなく、普段の会話の中でも取り入れていくことが大切です。

中学校数学

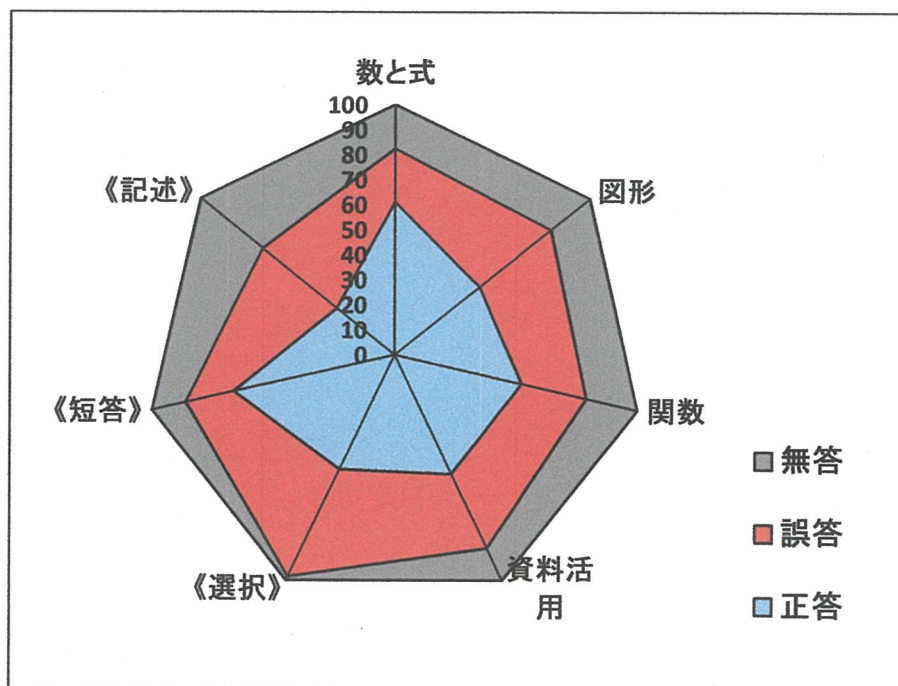
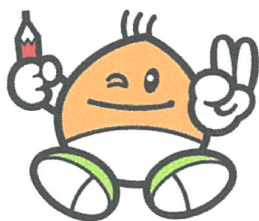


図4. 領域・《解答形式》別解答状況(中学校・数学)



優れている点

- すべての問題において、県・全国値ともに、正答率は下回りました。しかし、具体的な場面で、一元一次方程式をつくること、ヒストグラムから、ある階級の度数を読み取ること、2つの分布の傾向を比べるために、相対度数を用いることの必要性和意味を理解することについては、比較的できていました。

課題となる点

- 特に大問9は、無解答率が高い傾向にあります。三角定規を組み合わせでできる四角形について、文章で説明されている部分が多く、最終問題ということもあり、問題文を読む前に解くことをあきらめてしまったことが予想されます。
- 平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由を説明する、錯角が等しくなるための、2直線の位置関係を理解する、ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現する力をつけることが必要です。
- 経過した時間と影の長さの関係を、「...は...の関数である」という形で表現するという、「関数の意味の理解」に課題が見られました。日常的な事象の中にある二つの数量の変化や対応の様子を調べ、それらの関係を見いだす活動を通して、関数の意味を理解することが大切です。

中学校数学で課題が見られた問題

9 (3) $\angle ARG$ や $\angle ASG$ の大きさについていつでも言えることを書く問題です。

- 9 30°, 60°, 90°の同じ三角定規を2つ用意し、それぞれ $\triangle ABC$, $\triangle DEF$ とします。直輝さんと由衣さんは、この2つの三角定規を組み合わせてできる四角形について考えることにしました。



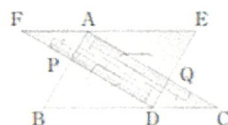
二人は、2つの三角定規を右の図1のように、点Aと点F、点Cと点Dが重なるように並べました。このとき、四角形ABCEができます。

図1



次に、図2のように、点Dが辺BC上にあり、辺EFが辺BCと平行になるように、 $\triangle DEF$ を $\triangle ABC$ に重ねました。辺ABと辺FD、辺EDと辺ACの交点をそれぞれ点P、Qとすると、四角形APDQができます。

図2



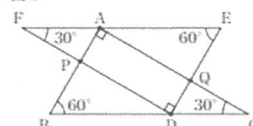
そして、図3のように、点Dが辺BC上にあり、辺EFが辺BCと平行になるように、 $\triangle DEF$ を左に動かしました。

図3



- (2) 二人は、17ページの図2、図3のように、2つの三角定規を重ねたところにある四角形APDQが長方形になると予想し、予想が成り立つことを示すために、次のような図5をかきました。

図5



4つの角がすべて等しい四角形は、長方形になります。四角形APDQについて、 $\angle PAQ = \angle PDQ = 90^\circ$ より、 $\angle APD = 90^\circ$ がいえれば、 $\angle AQD = 90^\circ$ となり、四角形APDQは長方形になります。そこで、直輝さんは、 $\angle APD = 90^\circ$ になることについて、次のように考えました。

直輝さんの考え

- ① $\angle APD$ は $\triangle AFP$ の外角だから、 $\angle AFP$ と $\angle FAP$ の和に等しい。
- ② 2直線FE、BCに直線ABが交わってできる角のうち、錯角である $\angle FAP$ と $\angle PBD$ は等しくなることから、 $\angle FAP = \angle PBD = 60^\circ$ になる。
- ③ ①、②より、 $\angle APD = \angle AFP + \angle FAP = 30^\circ + 60^\circ = 90^\circ$ になり、 $\angle APD = 90^\circ$ といえそうだ。

直輝さんの考えの②で、錯角である $\angle FAP$ と $\angle PBD$ は等しくなるといえるのは、直線FEと直線BCに、ある関係が成り立っているからです。その関係を記号を使って表しなさい。

9 (2)

錯角が等しくなることについて、根拠となる直線FEと直線BCの関係を記号を用いて表す問題です。

- (3) 二人は、左に動かす三角定規を、斜辺を底辺としたときの高さが $\triangle ABC$ と等しい45°, 45°, 90°の三角定規に変えて、重なったところにある四角形について考えることにしました。

右の図6のように、45°, 45°, 90°の三角定規を $\triangle GHI$ とし、辺ABと辺IG、辺HGと辺ACの交点をそれぞれ点R、Sとすると、四角形ARGSができます。

図6



点Gが辺BC上にあり、辺HIが辺BCと平行になるように、 $\triangle GHI$ を左に動かしたとき、二人は、四角形ARGSが長方形にならないと考え、次のような図7、図8をかきました。

図7

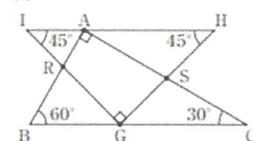
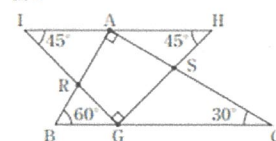


図8



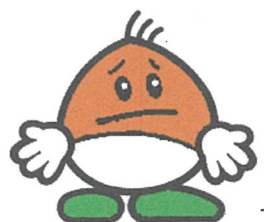
二人は、図7、図8で、四角形ARGSが長方形にならないことから、四角形ARGSがどんな四角形になるか話し合っています。

直輝さん「 $\triangle GHI$ を動かすと四角形ARGSの4つの辺の長さはそれぞれ長くなったり短くなったりするよ。角の大きさはどうなるかな。」
由衣さん「 $\angle RAS$ と $\angle RGS$ の大きさはそれぞれ90°で変わらないね。 $\angle ARG$ と $\angle ASG$ の大きさはどうかな。」

$\triangle GHI$ を動かしても、四角形ARGSの $\angle ARG$ と $\angle ASG$ の和はいつでも180°になります。このほかに、 $\angle ARG$ 、 $\angle ASG$ の大きさについて、いつでもいえることを書きなさい。

9 (2)の正答率
市:54.1%
(無解答率25.7%)

県:60.6%
全国:64.3%



-9-

観察、操作や実験などを通して、平行線や角の性質を理解する機会を設けたり、図形の性質や平行線の性質に基づいて、図形の性質が成り立つ理由を検討する場面を設定したりして、学習を進めていくことが求められます。

9 (3)の正答率
市:19.9%
(無解答率46.4%)

県:25.8%
全国:28.8%

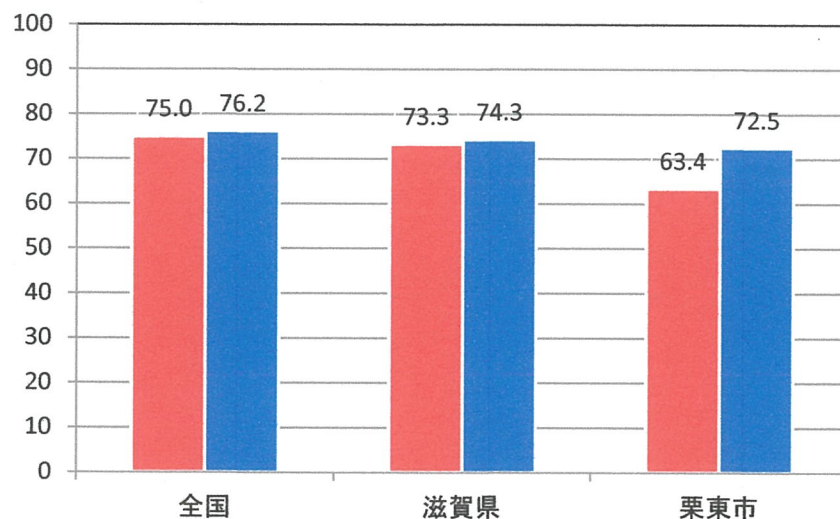
児童生徒質問紙調査結果

昨年度コンピュータなどのICT活用を月1回以上行った

学習の中でコンピュータなどのICTを活用することは
勉強の役に立つと思う

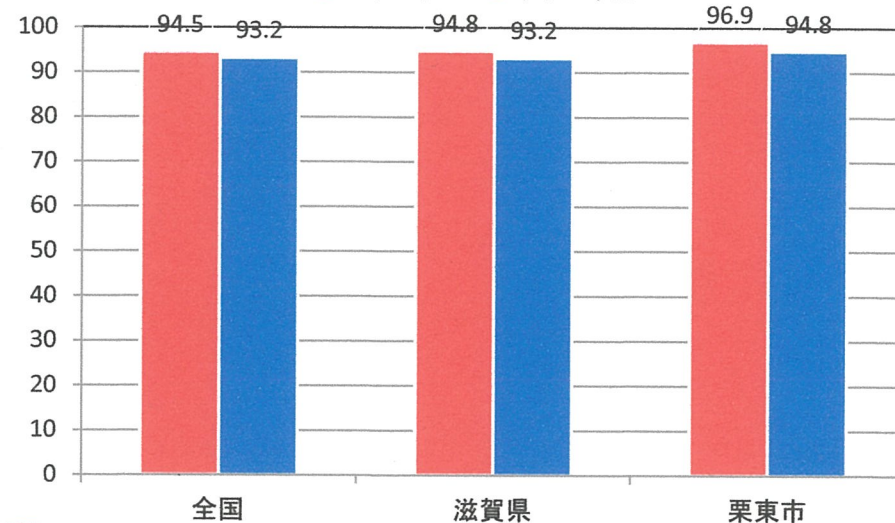
(%)

■ 小学6年生 ■ 中学3年生



(%)

■ 小学6年生 ■ 中学3年生

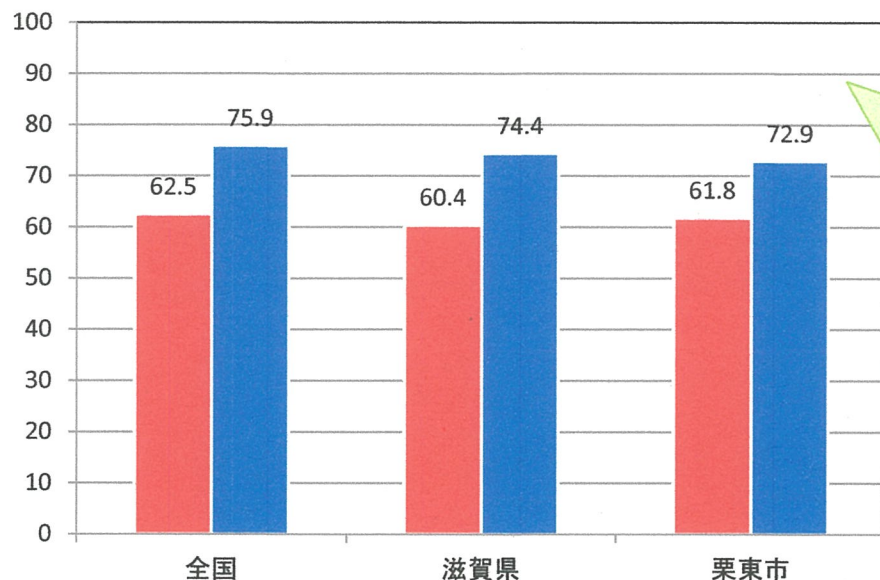


昨年度まで、コンピュータなどのICT活用については、情報教室等に限られていましたが、今年度からは一人一台端末が整備され、子どもたちは教室ではもちろんのこと、各家庭においても、端末（Chromebook）を使っでの学習が可能になりました。この回答は、ICTを活用した学習への子どもたちの期待の高さと必要性を物語っています。栗東市のChromebookは、授業や家庭学習での調べ学習はもちろんのこと、ドリル問題のアプリケーションソフトが入っており、学習内容の復習を可能にするだけでなく、つまづいたところや苦手な内容について、個に応じた問題が出されるように設計されています。全国学力・学習状況調査での苦手部分を克服するのにも役立ちます。

普段、家で1日当たり1時間以上勉強する
(学習塾等での時間も含む)

(%)

■ 小学6年生 ■ 中学3年生



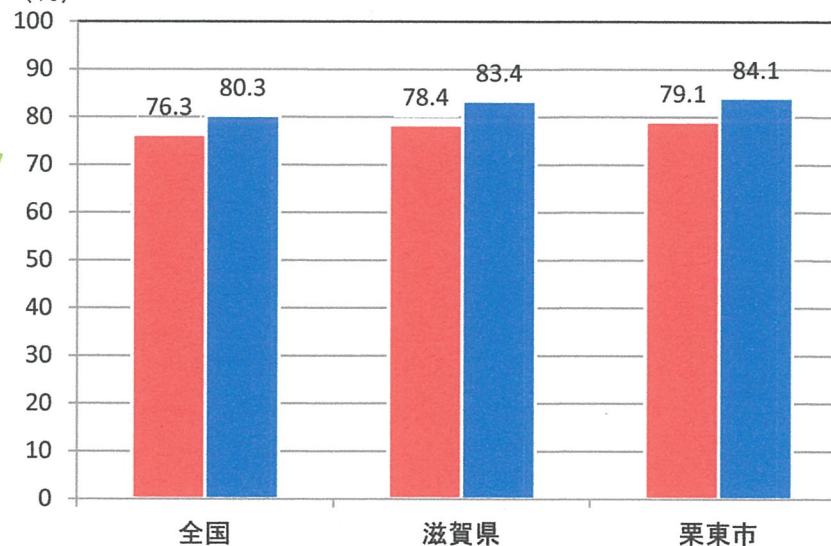
放課後や週末にテレビやビデオを見たり、ゲームやインターネットをしたりして過ごすことが多いと回答した児童生徒の割合が高いです。携帯電話やスマートフォンの使用時間が長くなる傾向もあります。携帯電話やスマートフォンを長時間使用すると、勉強や睡眠の時間が削られるだけでなく、「習得した学習が消えてなくなる」とも言われています。ノーメディアデーを設けるなどして、読書に親しむ時間をつくることも大切です。

前回の調査時よりも、小学生・中学生ともに1日当たり1時間以上学習している子どもたちが増えています。特に中学生の伸びが大きいです。ただ、与えられた課題に対して前向きに取り組むことができますが、目標を持ち、自分で計画を立てて学習する力に弱さが見られます。予習・復習を中心に自分の学習スタイルをつくり上げることが大切です。

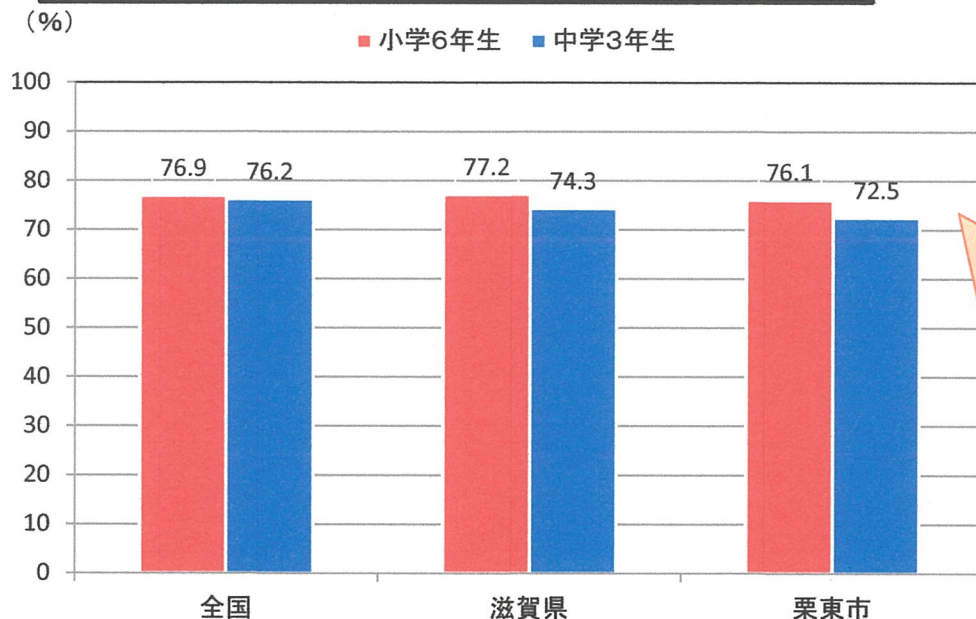
放課後は、家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりして過ごすことが多い

■ 小学6年生 ■ 中学3年生

(%)



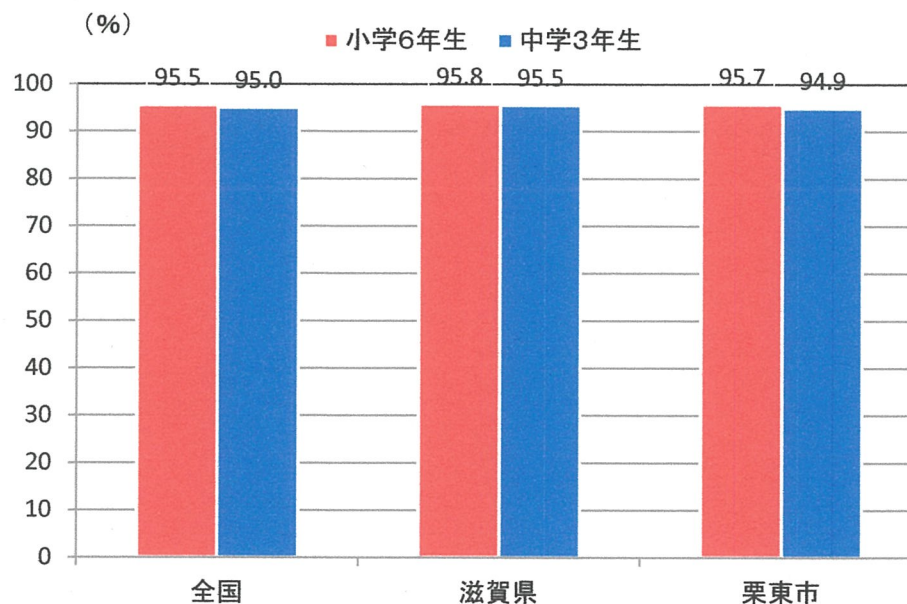
自分には、よいところがあると思う



「自分には、よいところがある」と肯定的に回答した児童生徒は、前回の調査時よりも全国的に減少しています。特に中学生で大きく減少していることがわかりました。結果にとられるのではなく、子どもの頑張っている過程を認めることを大事にしたいものです。人から認められているという思いは、何事もあきらめずに頑張ろうという意欲につながります。

人の役に立つ人間になりたいと思う

「人の役に立つ人間になりたいと思う」と肯定的に回答した児童生徒は、前回の調査時よりも増加しています。「人が喜ぶのが嬉しい」「社会をよりよくしたい」「責任感や使命感をもちたい」など、人の役に立とうとする気持ちは尊いものです。そのために、まずは自分の存在に価値を見出すことが大切です。子どもたちの自己肯定感を高め、子どもたちが物事を前向きにとらえたり、積極的に行動したりできるよう促していきたいものです。



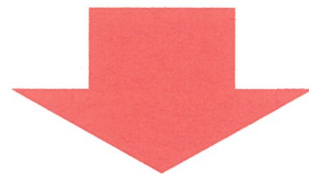
全国学力・学習状況調査結果を踏まえた今年度のまとめ

○ 課題となっていること ○

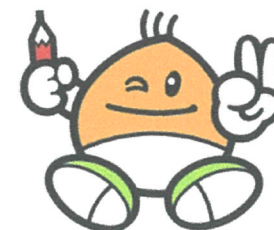
- ・小学生、中学生ともに、教科を問わず、各問題における正答率が低い。特に記述式の問題における無解答率が高くなっている。
- ・国語科、算数・数学科ともに、基礎基本の問題が解けていない。
- ・各家庭において、長時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりして過ごす子どもたちが多い。

○ 各校において求められている取組 ○

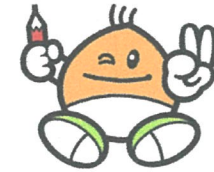
- ・文章を読む力、書く力を高めること。
- ・基礎学力の定着を図ること。
- ・ドリル問題のアプリケーションソフトの活用では、指導者が、子どもたちの学習状況を確実に把握すること。
- ・家庭学習の在り方について、十分検討すること。



栗東市の学ぶ力向上策



栗東市の学ぶ力向上策



くりちゃん元気いっぱい運動

○「早ね・早おき・朝ごはん」では…基本的な生活習慣の定着を進めます。

○「きらりフル チャレンジ」では…

- ・「小学校くりちゃん検定」の取組を「小学校くりちゃんチャレンジ」として改善し、基礎的・基本的な学力と学習習慣の定着、継続的な意欲の向上を図るために、今後はICTも活用した取組を進めます。

- ・学習の足跡をノートだけでなく、一人一台端末(Chromebook)にも残すようにし、目標を持って取り組めるようにします。

- ・子どもたちが、ドリル問題のアプリケーションソフトを活用して、最後まで問題をやり遂げられるように、学習状況の把握を各校で確実に行います。

- ・市教育委員会においても、各校との連携を密にし、定期的に子どもたちの学習状況を把握します。

- ・市教育委員会から各校へ学習支援員を派遣し、学校とともに子どもたちの基礎学力の定着を図ります。

- ・「栗東市学力調査(国・数・英・生徒質問紙)」【中学2年生】を実施し、生徒の学ぶ力を検証して授業改善につなげます。また、生徒一人ひとりの学習状況を把握し、補充学習の充実を図ります。

○「ありがとうと言える子育て」では…自尊感情を育み、規範意識や良好な人間関係を築いていく素地を培います。

授業改善に向けた取組

栗東市では、県の「第Ⅱ期 学ぶ力向上滋賀プラン」により、「読み解く力」の育成に重点をおいて、次の3つの視点から学ぶ力向上の取組を推進しています。

- ①「学びを実感できる授業づくり」
- ②「学ぶ意欲を引き出す学習集団づくり」
- ③「子どものために一丸となって取り組む学校づくり」

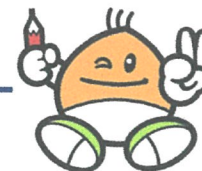
これを受けて、子どもたちの「分かった」、「できた」という喜びや達成感を大切にし、できなかったことが1つでもできるように取り組むことが非常に重要だととらえています。そこで、各校では、子どもたちが「わかる」「できる」喜びを実感できる授業改善に、引き続き取り組みます。

【各校で目指す授業】

- 指導者が、この学習でどのような力を子どもたちにつけるのかを明確にもち、子どもたちが「何ができるようになるか」「何を考えるのか」をめあてにして取り組める授業
- 必然性のある言語活動から新たな気づきがある授業
- 毎時間のふり返りを通して自分の成長を確認し、学びを定着させる授業

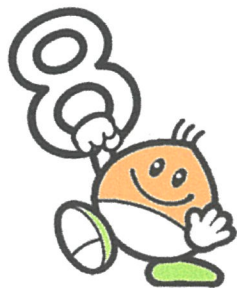
【その他の授業改善の取組】

- 滋賀県教育委員会の指導・助言のもと、引き続き授業研究会の充実を図ります。また、小中連携を進め、小中学校の接続を意識した授業改善にも取り組みます。
- 英語科を中心に市内全小中学校で授業公開を行い、学校間をこえて授業の交流を図ります。
- 講師を招いて研修をしたり、公開授業研究会に参加して先進的な取組を学んだりしています。
- 栗東市立教育研究所が主催する夏期研修講座を充実させ、教職員の指導力向上に努めます。



授業のクリエイト

- ・毎日の授業の中で、「授業のクリエイト」の8つの方策を取り入れながら、授業づくりを進めています。
- ・子どもたちが「どのように学ぶか」に焦点を当て、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図っています。
- ・今年度においても、「めあての提示」「評価活動」「ふり返し」に重点を置いて取り組んでいます。今年度の全国学力・学習状況調査の結果を受け、今後は、日々の学習の中で「書く力」を高める取組の1つとして、学習の最後に「ふり返し」を自分の言葉で書くことに力を入れていきます。また、授業によっては、ノートやプリントに書くだけでなく、一人一台端末(Chromebook)を活用して行います。そのために、どのように自分の言葉でまとめるのか、「ふり返し」に何を書けばよいのかという指導も続けていきます。



授業のクリエイト

東京市教育委員会事務局学校教育課



1	本時のめあてを明示 (課題提示) *「めあて」とは？→子どもが解決する課題のことです。「内容」「方法」「心情」に関わる子ども側からみた言葉で表します。子どもの意欲を引き出すものであり、主体的な学習には不可欠です。
2	言語活動 (主体的な学習活動) *自分の考えを表現する活動です。少人数での学び合いや、気づきをノートにまとめることや、学習した各教科の言葉を用いて説明するといった時間や方法を、授業の中に位置づけます。
3	個別の支援 (具体的な手立て) *子ども1人ひとりの実態に応じて、具体的に支援をします。課題設定や問題解決の手立てをきめ細かくする必要があります。
4	考えを問う発問 (「理由」「方法」を問う) *単に正解を問うのではなく、「理由」や「方法」など、考えを問う発問を工夫します。また「分からないこと」を問うことで課題解決の糸口を見つけることができます。
5	評価活動 (個々の見取り) *やらせっぱなしで終わるのは指導ではありません。本時の目標に応じた評価規準を具体的に描き出し、個々を見取ります。具体的に子どもをほめることが指導につながり、周囲の子どもにもモデルとなります。
6	ふり返し (自分の言葉でまとめる) *その時間の学びを自分の言葉でまとめることで、より確かに定着させることができます。このふり返しは学習のめあてに沿ったものになるよう工夫します。
7	板書 (学習の足跡) *授業の1時間の流れや子どもの思考の深まりが明確に分かる板書を工夫します。また、ノート指導とリンクした板書の構成も大切になってきます。
8	ノート指導 (課題→自己解決→今日の学び) *課題(めあて)と自己解決と授業の中で新たに学んだ内容が、整理して書けるように指導します。様式はある程度各教科で共通するものを作ると、定着しやすくなるでしょう。



全てを一度に実践するのは難しいかもしれませんが、日頃の授業で8つのポイントがどれぐらい取り入れられているかを常にチェックして、授業改善を図りましょう。

読書指導と読書環境の充実

【学校における読書指導】

○子どもたちに「読む力」をつけるため、各校の実情に合わせて読書指導の充実を図り、読書量の増加を目指します。例えば…

- ・「朝の10分間」「○曜日の読書タイム」など、一斉に読書をする時間を設ける。
- ・学習に関連する図書を並行して読む時間をつくる。
- ・図書委員会などの委員会活動を中心に、読書イベントを企画する。
- ・引き出しや机の横に絵本バッグを用意し、いつでも読みたい図書が手元にあるように工夫する。
- ・地域や保護者ボランティア、市立図書館と連携して「本の読み聞かせ」を行ったり、図書の紹介を通して図書の魅力に触れさせる機会を増やしたりする。
- ・教員による「本の読み聞かせ」を行う。

などです。

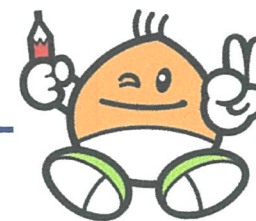
【読書環境を整える】

○図書室に蔵書管理システムを導入し、図書の貸し出し・返却がスムーズになったことで、調べ学習の充実を図ります。

・一人一台端末(Chromebook)により、学校では、場所を問わず調べ学習が行えるようになりましたが、

図書による調べ学習をする環境を充実させることで、「本に触れる」「本を読む」機会を増やします。

・図書室における蔵書数の充足率を高め、子どもたちが多くの図書に触れられるよう努めます。

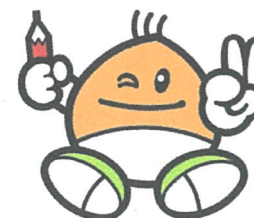


学ぶ力向上に関する検証改善サイクル

- 全国学力・学習状況調査結果、栗東市学力調査結果の分析を各校でも詳細に行い、毎日の指導改善に役立てています。また、調査の個別の結果を、一人ひとりの指導資料としています。
- 市教育委員会が提示する「学ぶ力向上策」に加えて、各校においても「教員の意識改革」「授業改善」「学習習慣」「学力補充」の4つのキーワードをもとに「我が校の学ぶ力向上策」を作成し、定期的に達成度を評価しながら学ぶ力の向上を進めています。

家庭との連携

- 各校では「家庭学習の手引き」を作成し、家庭での学習習慣の定着を図っています。各家庭においても、一人一台端末（Chromebook）を活用した学習が可能になったことから、ドリル問題のアプリケーションソフトを活用し、授業の内容の復習やわかりにくかったところ、つまづいたところ、苦手な内容などについて、家庭での学習に役立てることができます。
- 「早ね・早おき・朝ごはん」等の啓発を行い、生活習慣の確立をめざしています。



ご家庭のみなさまへ

- ・全国学力・学習状況調査は、子どもたちの学力の一面を切り取ってひとつの指標としているものであり、決して競争をあおるためのテストではありません。子どもたちにどのような学力が身につく、どの点で課題があるのかを明らかにし、日々の教育活動に生かすことが主なねらいです。
- ・ここに示した資料は、栗東市全体の概要であり、お子さん一人ひとりの状況とは一致しない面も少なからずあります。お子さんの学習状況を考える上での参考資料としてください。
- ・子どもの学ぶ力向上には、勉強することはもちろん、自尊感情を高めること、将来の夢を持つこと、健全な生活習慣や人間関係を築くこと、心を豊かにする体験をし、人とのコミュニケーションを育むこと、体力を身につける日常の運動習慣をつけること、心身共に健康な状態を保つことなど、様々な要因が関わっています。お子さんが、温かな環境のもとで安心して学習ができますよう、これからもご配慮いただきますよう、よろしくお願いします。

栗東市教育委員会

